

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300421		
法人名	有)グループホ - ムふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」しまばら		
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740 - 1		
自己評価作成日	平成 22 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 23 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1、行事や地域に出ることで、生き活きと心豊かに余韻の残る介護に努めている。 2、一人ひとりの力に合わせることができることを引き出し、自分らしく暮らすように個別ケアを重視している。 3、職員は積極的に研修会に参加し、スキルアップに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、近隣の法人内事業所と共に地域からの理解と支援を受け親しまれるホームとして8年の歳月を重ねてきた。利用者、家族、地域住民から厚い信頼を寄せられる代表者は、認知症ケアの第一人者として多方面にわたって指導、啓蒙に貢献してきた。管理者、職員からは異口同音に「代表が頑張っているから私達も頑張らない」との言葉が寄せられ、そのモチベーションと向上心の高さから統一した質の高いケアが確認できる。今年度は利用者の入れ替わりからの人間関係の変化に加え、隣接して法人内事業所の移転工事が始まり、庭や畑へ出ることへの制限等環境の変化もあった。重度化への対応も課題の一つであり、「自分らしい」暮らしを支える為に個別対応に努めている。歳月と共に訪れる変化はあるが、変わらぬ理念の実現への熱意、他にはないその一貫性と普遍性は頼もしい。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いても障害を持って、当たり前に分らなく、普通に暮らしたい。」の理念を掲げ、地域で安心して暮らして行けるよう実践している。	利用者が「出来ることは忘れないように」職員が手を出し過ぎず能力を活かす支援を心がけている。入居においてともすれば狭くなる活動範囲を地域に出ることで充実させ、理念に沿った暮らしを目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、地域の一員として積極的に参加し、招いていただくこともある。近隣とのつながりは特に大切にしている。	核家族が増えた今、活性化の為に世代間交流に地域は力を入れている中で、事業所は役割を担い恩恵を頂いている。開設当初から支えて下さっている地域住民との繋がりに、歳月の重みを感じると管理者は語られた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談を受けたり、代表は、音楽療法や、認知症ケアの講師も勤めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	敬老会などの行事に参加していただき、利用者や、サービスの実際を見ていただいている。意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、近接する法人内二事業所で合同開催している。地域の情報収集が大きなメリットであり、事業所のモニター役として地域での口コミでの評価も伝えて頂けて、和気藹々と本音で語り合える会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や、相談など、日頃より協力関係を築いている。	代表者は事業所運営、認知症ケアにおいて第一人者であり、行政を含め対外的に講演依頼等の協力要請といった連携、協働がなされている。厚生労働省との折衝へ直接赴く機会もあり、新しい情報も得やすい。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心に毎月目標を定め、全職員で取り組み身体拘束をしないケアに努めている。	外出傾向の強い方もおられたが、気配を察して声かけをし共に出かけることで納得していただき、行動制止を未然に防ぐ取り組みに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開いたり、全職員で虐待に当たらないかはなしいをもち、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶ機会がある。又必要であれば活用できるよう支援している。現在は無い。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解・納得の上で契約を結んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に会議への参加をしていただいている。	家族へは面会時に主に管理者が対応し、行事、運営推進会議の折にも意見聴取を行なっている。満足度調査も実施しており、今後も継続してフィードバックしていきたいとしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また反映させている。	会議は職員全員が発言しやすく、事業所間で異動があるので新しく配置された職員から気づきを得ることで法人内で多面的視野を持って改善に反映させている。代表者の熱意が職員を牽引していると管理者は語っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が意欲的に働ける様環境整備が整っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加する機会があり、働きながら勉強できている。資格取得にも役立っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や、レクリエーションなどで、交流の機会がある。また協力体制もありサービスの向上にもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が困っていること、不安、要望に耳を傾け表情など観察し、安心されるような対応を心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が困っていること、不安な事、要望等話しやすい雰囲気を作り信頼関係が築けるよう努力している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人とご家族の状況把握に努め、何が必要か、その方にあった支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れず、家族の一員のように共に支えあう関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人とご家族の絆を大切に、状況報告や相談を心がけ共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族や友人・知人が気軽に面会できるよう努めている。他グループホーム入居のご主人や奥様と時々会う機会作りをしている。</p>	<p>「帰りたい」という思いを伝えられた時は自宅方面へドライブにお誘いすると、ほっとした表情を見せられる。馴染みの美容室へ出張カットをお願いしたり、自宅隣りの美容室へは送迎し、帰りに自宅へ立ち寄り支援を行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>良好な関係が保てるよう座る場所も配慮している。他の入居者のお世話をされることもあり支えあって生活している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も来訪されたり、ご家族の相談にものっている。また入院された時などご家族のできないところをフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努め、話し合いやアセスメントで検討している。	これまでの暮らしぶりなど家族からの情報提供をベースに、日常的には会話の中で思いや意向を探っている。会話、意思の疎通が困難な方は、行動や表情から読み取り職員間でも話し合って把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報等で把握後も本人との会話の中、御家族面会時など徐々に情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やアセスメント用紙にて現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望を基本に職員で課題を話し合い、できることの支援も含め介護計画を立てている。毎月の見直しも行っている。	法人内3事業所で職員異動があることを踏まえ、統一化を図る為11月より記録類の書式変更を行った。「自分らしく」暮らす支援として具体的なサービス内容、例えば出来る範囲の家事の手伝い等を盛り込むようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそった介護記録をとり、気付きも記入している。情報の共有、計画見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなニーズにできるだけ対応している。入院されたとき、ご家族が遠方で出来ない洗濯や買い物などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康村(リハビリ施設)を利用したり、各種サークルの慰問などもあり、安全で豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切にかかりつけ医での受診を基本とし、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診支援を行っており、家族の付き添いもある。定期健診や変化がない場合は毎月のお便りで、特変、体調不良時は直接電話で家族に報告をして、情報共有がなされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報を伝え、相談など随時行っている。個々の利用者が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院と連携をとり、情報交換に努めている。本人の精神安定のために、術後一週間で退院された事もある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に合わせて、ご家族と何度も話し合いの場を持ち、事業所で出来ることを、説明しながら病院とも連携を取り、チームで支援している。	今年度は二名の利用者が体調の急変や、入院を経て亡くなられた。その経過において連絡を取り合い話し合いを重ねる中で、改めて利用者や家族との関係性を考えた。本人の思いの代弁者としても人生最後の場面で支援に努めたいとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し事故発生時に備え、訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難・消防訓練を行っている。地域消防団との協力体制も築いている。	目標達成計画に沿って、訓練の反復とそこから不安材料を抽出し検討することを行った。避難経路となるウッドデッキ上の物品の片付けや地震の際のガスの元栓の確認など新たな対策、注意へと繋げることが出来ている。	隣接して法人内事業所の新施設が建つことで環境が変わり、避難経路、緊急時の協働等再検討の部分が出てくる可能性もある。その点も含め、避難訓練に対する現在の取り組みの継続を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応を心がけている。	昨年までなされていなかった個人情報の利用目的と保護に関する方針の揭示を行い、プライバシー保護に対する事業所の方針を明確にした。排泄や入浴支援などは、羞恥心に配慮して支援に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	命令的な言葉かけをせず、思いや希望が表出できる雰囲気作り。または働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた日常生活が送れるよう、また日中の過ごし方も希望を聞いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び、化粧、毛染め等その人らしい身だしなみを支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、下準備、後片付け等、一緒に行っている。食事も楽しみながら食べている。	献立の郷土料理について等、会話が弾む和やかな食卓である。食べようという意識がない方へは、声かけをしながら共に美味しく職員が食事をとることでモデリングとなり、自然な形で摂食を促す支援がなされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあわせ分量や形状を変えている。水分は決まった時間以外でも随時摂って頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により排泄パターンを把握し、早めの声かけ誘導を心がけている。	自立に向けて日中は声かけ、誘導にてトイレを使用している。トイレの構造と本人の状態が立位が困難な車椅子の方のみ、居室でポータブルトイレを使用している。夜間は身体状況に合わせてポータブルトイレ、おむつ使用の方がいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、身体を動かしている。食材も繊維質の物やヨーグルトをよく使い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調にあわせ、個々にそった支援をしている。	入浴拒否の傾向の方もいらっしゃるが、声かけやタイミングを見計らって入浴頂いている。浴槽に使っている時間は、職員と1対1でコミュニケーションがとれる憩いと癒しの時間となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ休息したり気持ちよく眠れるよう、布団干しや湯たんぽを入れるなど支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬管理表を作り、全員が把握できるようにしており、副作用についても十分注意し変化に気をつけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、それぞれの力を活かしながら喜びを持ち生活できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にドライブや散歩に出かけているが、四季折々遠出もこころがけている。またご家族と外食を楽しまれる方もいらっしゃる。	外出が大好きという利用者の意向に応じて、ネットワークも軽く職員は対応している。通院支援の行き帰りの買い物やドライブや、法人内事業所のリフト車を借りて車椅子、重度の方も外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて支援しているが、現在は自分で管理できる方はいらっしやらない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直筆で子供や孫にハガキを出される方がいらっしやる。電話は希望に応じ支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて過ごしやすい様配慮している。玄関や食堂など季節を感じていただけるよう、花や飾りを置いている。	居間は昔ながらの二間続きの和室で、法人内事業所との合同行事の際も集いの場となっている。縁側のような廊下に沿って広々と外を見渡せる窓とウッドデッキが、開放的で明るい。調査日は縁側から隣の工事の進捗状況を利用者が興味深く見守っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間・デッキ・廊下などいたる所にイスを置き、好きな場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・布団・写真・位牌を持ち込んでいただき、安心して居心地よく過ごしてもらっている。	畳、フローリングの二つのタイプの部屋があり和風と洋風が混在した落ち着いた雰囲気のある室内へは、持ち込みの椅子、仏壇、筆筒等があり、ベッドも持ち込み、貸与の選択が出来る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手すりをつけ、伝わりながら安全に移動できる。洗面所やトイレも目に付くよう表示している。		